

県外（栃木県）視察研修

10月15日から、2泊3日。公費負担0、全額自費で9議員が参加。

太陽光発電・リサイクルセンターを視察



太陽光発電（知恵の環館）

**太陽光発電
メーカー保障は
10年**

10月15日早朝4時、仁淀組合橋を出発。高知空港が東京国際空港を経て、芳賀町に到着。芳賀町総合情報館（知恵の環館）を見学した。

この館は、文書館・博物館・図書館を設置し、開館記念展として福田たね、青木繁の絵画展が開催されていた。

館は太陽光発電システムを利用、普通の家2軒分の発電をしている。メーカー1カー保障年数は10年程度である。

芳賀町役場で、環の町

「芳賀」循環型社会の取り組み、太陽光発電システム設置支援事業について研修、勉強する。

太陽光発電は、太陽の光エネルギーを直接電気に変換するもので地球温暖化防止、クリーンエネルギー利用に貢献している。

**年間10万円の
電気代節約**

平均的な一般家庭では、年間約3600Kw消費するので、出力34Kwの発電システムを設置するケースが多い。

メリットは、設置費を除くと年間約10万円分の電気代が節約できる。

標準的3.5Kwシステム導入に約240万円かかるので、設置費用は約24年で回収。

設置単価は1Kwあたり約68万～70万円である。

**町補助7万/Kw
で
上限は21万円**

経過・実績はH16年4月支援事業スタート（町補助1Kw7万円、上限21万円）、16年には60件設置件数があったが17年～20年は減少している。目標



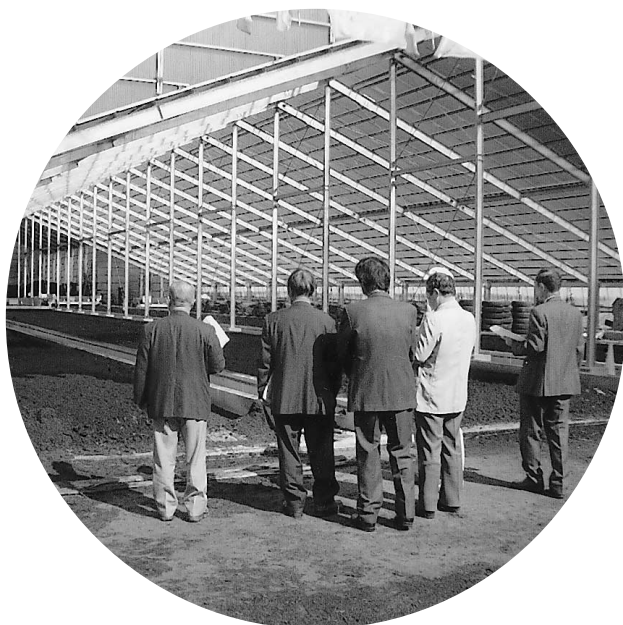
意見交換（芳賀町役場）

件数は30件（90Kw分）で環境にやさしいまちづくりを目指す。

設置者の声として、「光熱費の削減」「オール電化による安全性向上」「CO₂削減」など。

以上夕方まで研修、宇都宮へ移動ホテル宿泊。

16日8時出発、第2の目的地茂木町に9時頃到着。



良質のたい肥ができます (美土里館)

美土里館は総事業費6億1500万円(国3億、県2億円補助)残りを町

**落ち葉一袋(20kg)
400円で買取
運搬**

の有益微生物により105日以上じっくり発酵させた良質なたい肥である。このたい肥を利用活用し、有機農産物を生産している。肥料は売れ行きが順調で生産が追い付かず、うれしい悲鳴である。

が出資して操業以来、年間経費4000万円、年収入2000万円であるが、ミドリ効果で5000万円分の貢献をしている。

落ち葉1袋(20kg) 400円で館が直接買い入れ。たい肥を使用した有機野菜等がよく売れるので農家にも大きく貢献、地産地消の野菜を学校給食に80%利用し命を大切に作る食材を提供している。



研修風景 (撮影：藤原陽三議員)

環境保全型 農業の推進

茂木町は「美土里館」を核として、これまで不用品のとして扱われてきた、廃棄物や地域の未使用資源のリサイクルを進め、自然の持つ循環システムとの共生を目指し、

着。議長と議会議務局長の案内で全国的に有名な有機物リサイクルセンター美土里館に10時頃着き説明を聞く。

美土里たい肥 生ゴミ、牛糞、枯葉 おがくず、もみガラ

美土里たい肥は、生ごみ、牛糞、枯葉、おがくず、もみガラを使用し、作物のうまみを作りだす微量要素(ミネラル)が多く含まれている。多量

環境保全型農業の推進・ゴミのリサイクルの推進・農産物の「地産地消」体制の確立・森林保全の推進が町の基本方針である。



途中でやな場を見学、鮎がたくさん取れてました (茂木町)

**言いたいことは
山ほどある**

言いたい事は山ほどあるが、良い事、やるべき事は徹底して実行したいと思う。

有意義な研修であったと自負し、町民の暮らし生活に生かしていきたい。

(野村安夫)

臣賞一等一席を受賞

ら見事最高位を獲得 ー

諸般の報告 町長 藤崎富士登



本年度の普通交付税の

交付税

8月5日第61回関西茶品評会で池川茶業組合が普通煎茶の部で一等一席の農林水産大臣賞に輝いた。

また、池川茶研究会も一等九席の全国茶生産団体連合会会長賞を受賞しており、本町の茶生産組合の技術の高さが証明され、日頃の努力に敬意を表する。

19年4月から、地方公共団体の財政の健全化に関する法律が施行され以前は標準財産規模の20%

財政状況

算定結果が発表され、前年度対比3.8%増の32億3438万円の交付となった。これは、地方再生対策費が創設されたことによる。

特別交付税は来年3月に決定されるが、昨年度同様の交付額は望めない。

職員採用

合併協議会で、5年間は職員を採用せず、退職者5人に対し1人と協議がされていたが、見込みより退職者が多く、年齢構成に歪みを生じているため若干名採用する予定。

また、特別会計や企業会計も併せた連結決算で、財政状況を明らかにすることになった。

カラタチ分収林

カラタチ分収林は、契約期間の40年が満了し現況評価を県森林組合連合会に委託調査したところ、マイナス720万円になるため契約者に町の権利を譲渡することで了解してもらった。

住民税年金天引

来年10月から始まる、年金所得にかかる町県民

後期高齢者

税の特別徴収における年金保険者との情報の受け渡し方法がおおむね決定した。

年金給付機関と市町村間における年金や税金の情報のやりとりは社団法人を通じて行うため、高度なセキュリティシステムの構築が必要となる。

システム構築には許可を受けた民間事業者の代行サービス利用型が適当と考えている。

地上デジタル

地上デジタル放送の対

後期高齢者医療制度は、7月に条例改正され、当面、7割軽減世帯の保険料を8割5分に拡大し、年金収入211万円までの被保険者の所得割を50%とする。

21年度以降は7割軽減世帯のうち被保険者年金額80万円以下で、その他の所得がない世帯は、9割軽減となり、211万円までの所得割50%軽減の継続となった。

「池川茶」農林水産大

— 8府県334点の中か



地域アクション プラン

所得の向上や雇用の創

応は、自主共聴施設8箇所を調査した。結果は、老朽化が激しく、ケーブルなど全面改修の必要な設備もあり、町全体で1億数千万円の事業見込みが、4億円近くなる。池川、仁淀中継局は、来年開局後、調査、改修の予定。

別枝「えんこ巖」

別枝地域では、仲間、

出、県経済の活性化に具体的に結び付く計画になるよう、産業別の産業成長戦略と地域別の地域アクションプランで構成される、高知県産業振興計画の策定作業を進めている。本町の素材洗い出しを進め、仁淀川流域6市町村で地域アクションプランの策定作業を進めている。

田村地区多目的広場

稼ぎ、ファンを増やす3つのテーマに地域活性化組織秋葉まつりの里を元気にする会、「えんこ巖」の活動が農水省のふるさと地域力発掘支援モデル事業として採択され、本年度を含む5年間、上限1000万円の助成金で実践活動をしていく。

「ゆの森」

「ゆの森」は本年度で12年目を迎え、レストランの利用客も15年度2万5907人から、19年度1万6437人と減少。また、地元からクレームが付くなど問題点を解消するため協議し、本館等の改修工事を計画し、旧日浦邸も多目的な利用が可能な施設として建築も検討している。

保育所

現在保育所の民営化を計画、協議している。様々な保育ニーズへの対応や子どもの立場を見据え、保護者との信頼関係の構築に努めながら、民間活力を導入し、保育環境の向上を目指す。

「ソニア」

厳しい運営が続く「ソニア」は、売上高は上がっているが製造原価の割合が高く、当期損失額が大きいため、今後の方向性の決断に迫られている。

5月、7月の2回、4保育所で保護者説明会を開き、意見を聞いた。町は、園児に不安を与えないよう保育士を3年間派遣し引き継ぎで民営化したい。

また、民営化で国、県負担金の財源が見込まれその財源を活用し、保育料軽減の継続、生徒の医療費助成の拡充など子育て支援を充実したい。